

改革元年

新年あけまして、おめでとうございます。

同窓会会員の皆様には、佳き新春をお迎の事と、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、神奈川歯科大学にとって、財政赤字の増大や国家試験の成績低迷など余り良い年ではありませんでした。同窓会の皆様にも多大なご心配をおかけした事と思います。

今年は是非ともこれらの問題点を解消して、将来の発展への道筋をつける改革元年にしたいと考えています。その為に先ず行わなければならないのが、財政赤字の立直しであることは言うまでもありません。平成17年度の収支決算では約20億円の赤字が予想されています。この赤字を解消する手始めとして、平成18年度予算の基本方針が理事会で決定されました。その内容は予算総額を10%（約9億円）縮小し、出来るだけ人件費を除く経常経費の削減で賄うことになっています。従って経常経費約40億円から9億円近い削減という可成り厳しい予算案になるかと思われませんが、財政立て直しの為には避けて通れないことであり、従来のように総論賛成各論反対といった事は謹んで、教職員一同努力してそれを達成する以外に道はないと考えています。但し、大学の使命である教育と研究に関しては、その質を低下させない為に、これに関わる予算は現状のまま据え置くなどの配慮がされています。それでも尚、10億円の赤字が残りますが、それは、いずれ人件費削減を考慮に入れなければならないと思っています。この人件



学 長
梅木 俊夫

費削減の為に欠かせないのが教職員数の削減です。教員に関しては講座定員の見直しを議論しているところですが、早急に結論を出して実行に移して行きたいと考えています。

次に教育改革ですが、国家試験対策については2月の国家試験の結果を見なければわかりませんが、昨年の6月から12月までの補講により可成り6年生の学力は向上してきたと思っています。しかし、補講による対策は一次的なものであり、恒常的には、各科目の講義、実習あるいは学生評価の方法など、各講座で学生教育の方法を工夫してもらう必要があります。平成18年度には、大学全体で教育改革に取り組みなければならないと考えています。財政問題にしろ、教育問題にしろ、教職員個人個人がこれからの問題を自分の問題として捉えて改革論議に加わると共に、自らの果すべき役割を着実に果たすよう努力することが必要です。

平成18年がこれらの改革の始まりの年になるよう努力して参りますので、ご理解ご協力の程宜しくお願いします。